

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 今予報期間は、高気圧と気圧の谷が交互に日本付近を通過する。
- 気圧の谷が、15日頃と17日頃に日本付近を進む。

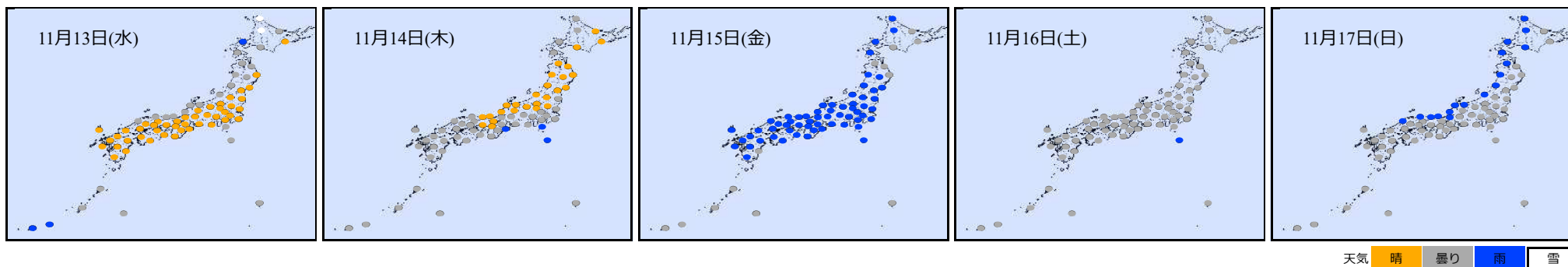
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 令和6年能登半島地震で揺れの大きかった地方は地盤の緩んでいる所があり、少しの雨でも土砂災害の危険度が高まるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

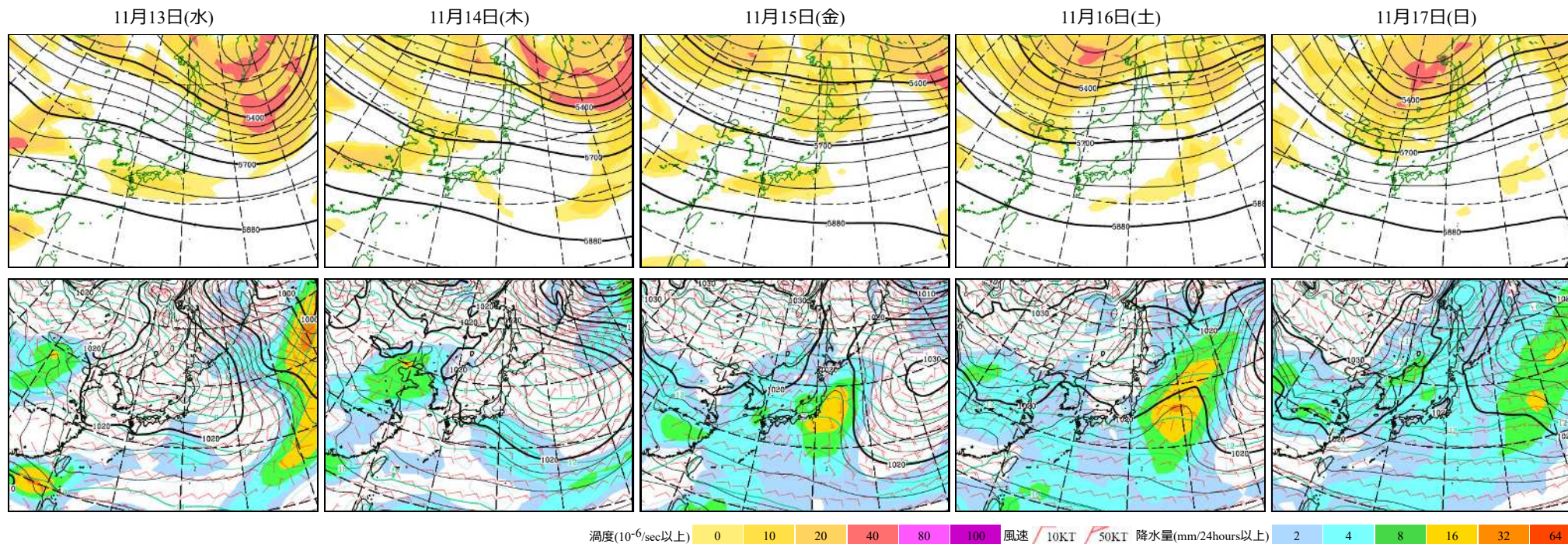
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

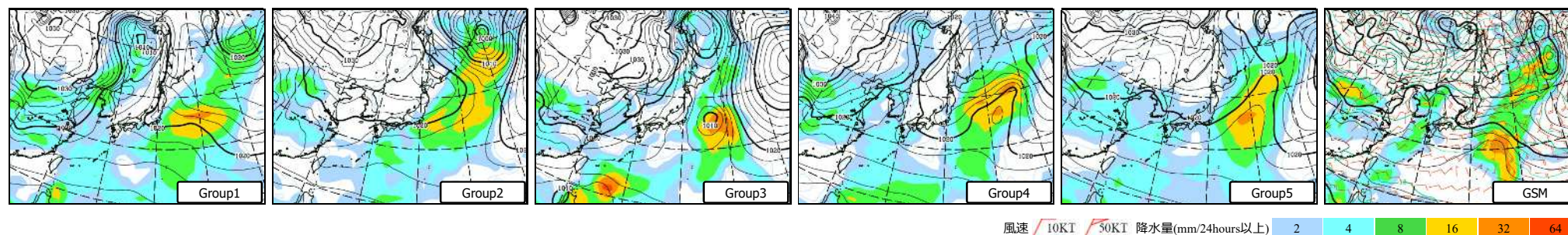


- 北日本は、晴れる所もあるが雲が広がりやすく雨または雪の降る所がある。
- 東日本と西日本は、13日は晴れる所が多い。14日から17日にかけては雲が広がりやすく雨の降る日がある。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆11月16日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料 (ENS) は、14日までは初期値変わりは小さい。15日以降は東西の流れが昨日資料より早くなった。地上の気圧配置の予想も同様で、15日の気圧の谷は東進が早まっている。
- 各モデルともに、14日頃までは初期値変わりが小さいが、15日以降は初期値変わりが大きくなっている。15日頃に日本付近を気圧の谷が通過する予想はおおむね揃っているが、16日以降の気圧配置については不確実性が大きい。
- 16日の地上の気圧配置はモデル間の差が大きい。ENSにはそれぞれのモデルに近い予想をするメンバーが含まれている。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。
- 16日以降は不確実性が大きい。今後、予報が大きく変わる可能性がある点に留意。